十二指腸腫瘍の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター 消化器・肝臓内科 では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	当院における手術室で全身麻酔下に浸水下でキャストフードを使用し、ProKnife を用いた Silent Spray 法による十二指腸 ESD の治療成績
【研究実施期間】	倫理委員会承認日～2027 年 2 月 28 日
【研究実施機関・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 消化器・肝臓内科 研究責任者 藤井 宏行
【対象となる方】	西暦 2025 年 3 月 1 日から 2026 年 7 月 31 日に消化器・肝臓内科にて十二指腸 ESD を受けられた 11 名
【研究の意義、目的、方法】	当院にて十二指腸の腫瘍性病変に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を施行された患者様の背景や治療法、治療効果などを検討することで、十二指腸の腫瘍性病変に対する安全で確実な内視鏡治療法に関して検討を行います。 なお通常浸水下で内視鏡治療を行う際に凝固波を使用すると気泡が発生し視界の妨げとなりますが、Silent Spray 法とは浸水下で ProKnife から送水しながら spray 凝固で焼灼することで、焼灼の際の気泡の発生を抑えて良好な視界で内視鏡治療を行える様にする治療法の事です。キャストフードとは内視鏡先端に装着して処置を行いやすくする先の細まった円筒の事で、Prolknife とは内視鏡の中を通して使用する電気メスで、独特の形状や先端からの送水機能などが特徴です。
【利用する情報の種類】	十二指腸 ESD に関する診療記録、診断用画像（上部消化管内視鏡など）
【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 消化器・肝臓内科科 藤井 宏行 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）